

# 日本天文学会初代会長 寺尾 寿の祝賀会の 写真発見，その祝賀会に参列した人々



中 桐 正 夫

〈国立天文台天文情報センター 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1〉

e-mail: nakagiri.masao@nao.ac.jp

初代日本天文学会会長，初代東京天文台台長，初代東京物理学校校長，初代測地学委員会委員長などを歴任し，日本の近代天文学の祖とも言える寺尾 寿が中心に写っている記念写真を，元 東京天文台職員の井上四郎の遺品の中から発見した．この写真は寺尾 寿の東京大学教授在職満 25 年祝賀会の記念写真と判明した．この祝賀会には 170 名が参列したそうだが，153 名が写真に写っており，そのうち 135 名の参列者の名前がわかっている．当時のそうそうたる顔ぶれであり，多彩な参列者が参列していた．（文中，筆者による部分については敬称を略す．）

## 1. 日本天文学会創設者 寺尾 寿

寺尾 寿(てらお ひさし)は，1855(安政 2)年 9 月 25 日，福岡藩士寺尾喜平太の長男として筑前国那珂郡春吉村(現在の福岡県福岡市博多区)に生まれ，藩校修猷館に学び，1873 年東京外国語学校(現在の東京外国語大学)でフランス語を習得，1874(明治 7)年開成学校(東京大学の前身)に入学し物理学を専攻，1878(明治 11)年東京大学理学部物理学科を卒業した日本で初めての理学士である．1879(明治 12)年，公費留学生としてフランスに留学し，モンソウリ天文学校で観測実習などを行い，その後パリ天文台でティスランに天文学を，パリ大学でブーゲーらの指導を受けて天文学，解析学を学び，フランスで *licence ès sciences mathématiques* の学位を得た．4 年間の留学を終え，帰国途中，1882(明治 15)年のフランス政府によるカリブ海のマルチニーク島における金星太陽面経過観測に参加し，アメリカ合衆国の天文台を回って 1883(明治 16)年に帰国した．

また，寺尾 寿は東京物理学講習所(現・東京理科大学)の創立者の一人であり，1883(明治 16)

年東京物理学校となり初代校長に就任し，1896(明治 29)年まで 14 年間在任した．一方，1884(明治 17)年 28 歳で東京大学理学部星学科教授に就任し，1888(明治 21)年東京大学天象台，内務省地理局，海軍観象台が合体し，麻布飯倉にあった海軍観象台の地に東京大学東京天文台(現・国立天文台)が発足すると初代台長に就任し，1915 年，60 歳になったときに東京帝国大学理科大学教授を退官したが，1919(大正 8)年に退くまで実に 31 年間台長職にあった．

日本は万国測地学協会への加盟を 1888(明治 21)年に決定し，寺尾 寿は 1889(明治 22)年のパリにおける万国測地学会議に日本を代表して出席している．万国測地学協会で地球の緯度変化(1888(明治 21)年発見)を詳しく調べることが取り決められ，地球上の同緯度(北緯 39 度 8 分)に 6 ヶ所の観測所を置くことになり，日本の水沢がその一つに選ばれた．観測所の設立のためには日本国内に独立した機関が必要ということで，1898(明治 31)年 4 月 27 日文部省内に測地学委員会が設けられ，初代委員長に東京天文台初代台長の寺尾 寿が就任した．その水沢の緯度観測所は 1988 年東京天文台



写真1 井上四郎の遺品から見つかった写真。

が改組された国立天文台の一部になった。

日本天文学会は、実際の発足の数年前に学会の発足と学会誌の発刊、会則などが決められていたが、日露戦争のため延期され、1908(明治41)年1月19日、東京天文台で日本天文学会発起人会がもたれ、この日をもって発足し寺尾 寿が初代会長に就任した。日本天文学会は今年、2008(平成20)年に創立100年となり、記念祝賀の行事がいくつか執り行われた。その中に「日本の天文学の百年」と題する記念誌も発行されたが、今回筆者が発見した寺尾 寿東京大学教授在職満25年祝賀会の記念写真は百年史編纂委員会では発見されず掲載されなかった。

## 2. 寺尾 寿の祝賀会の記念写真発見

東京大学100年史部局3、東京天文台編・太陽物理の項に以下の文がある。「太陽写真儀室においてクック製18cm(焦点距離213cm)対物レンズに写真機を併用して直径6cmの太陽像の写真観測が井上四郎によって実施された」、この井上四郎氏のお孫さんに会う機会があった。お孫さん

とはいえ83歳の上品なご婦人であった。

井上四郎は1920~1932(大正9~昭和7)年の間、東京天文台に在職され、太陽観測をされた方で、官舎にお住まいであった。当時の貴重なものはほとんど骨董屋に手放されたそうであるが、いくつかの道具と写真類は保存されていた。その写真の中に貴重な1点があった。写真1がそれである。

この写真は、初代東京天文台長で31年間も台長職にあった寺尾 寿を中心にご母堂、夫人が両側に写った153名もの集合写真である。この人の配置、時の東大総長も写っていることから、寺尾 寿の記念すべき行事の記念写真であることが伺われる。この写真の重要なことは、写っている153名のうち135名の方々のお名前がわかることである。井上四郎氏はこの写真に写っている人々に番号をつけ、名簿を作成していた。その名簿が図1である。(物)とあるのは、東京物理学校関係者と思われる。

主な方々は、寺尾 寿、寺尾ご母堂、寺尾夫人、浜尾 新・東大総長、山川健次郎・前東大総長、早乙女清房・第3代台長、井上四郎、平山 信・次期台長、長岡半太郎、木村 栄、福見尚文、

1	藤森温和氏	52	橋本房仁博士	103	高木貞行博士
2		53	寺尾壽次氏	104	渡辺元比呂博士
3	早乙女孝士	54	後藤敬次氏	105	渡瀬庄二郎博士
4	川世朝藤氏	55		106	蔭教篤子士
5	志田貞子士	56	福見裕文氏	107	下田卯市博士
6	井上四郎氏	57	船津米政博士	108	志江琢也博士
7	武藤鉄次氏	58	三守守士	109	人見忠次氏
8	右田新雄氏	59	田中館愛橋博士	110	藤田利明博士 高松豊吉博士
9	杉山正武氏	60	渡邊謙博士(学長)	111	高松豊吉博士 鹿野倉次博士
10		61	寺尾先生母澄	112	平山清次博士
11	水谷英保氏	62	湯水房助氏	113	
12	土肥慶彦博士	63	島野文二博士	114	浅野肇士
13	三車権一郎博士	64	野中利雄氏	115	一戸正弘博士
14	戸田克昭氏	65	藤沢利兵衛博士	116	片桐鍾二郎氏(90)
15		66	飯島勉博士	117	野口修昭氏
16	宮本益義博士	67	渡邊謙博士(学長)	118	三好孝博士
17	重野十次郎氏	68	戸川寛人博士	119	安田又一氏(90)
18	志津直孝博士	69	寺尾先生	120	田中館彦二郎博士
19	橋本鋭二博士(学長)	70	宮崎道次郎氏	121	松山清一氏
20	川野西正氏	71	綿方正規博士	122	平山孝学博士
21	坂井英右郎博士	72	戸野敏太郎博士	123	榊 肇 博士
22	中川金吾博士	73	野孫次郎博士	124	
23		74	寺尾夫人	125	金沢卯一氏(90)
24	平山行村士	75	寺尾亨博士	126	堀内邦太郎氏(90)
25	長岡中太郎博士	76	中村英平博士	127	今村昭三博士
26	山川健次郎博士	77	去田好九郎博士	128	藤野了祐氏
27	高橋清三氏	78	森アツ子氏	129	相村任二博士
28	小山清彦博士	79	中尾親次博士	130	福田為三博士
29		80	松原行一博士	131	森庄八氏
30	大塚文次郎博士	81	丸山末太郎氏(90)	132	中里裕徳博士
31	坪和彦昌博士	82	私田雄治博士	133	信田博太郎士
32		83	服部麗次郎博士	134	白井茂吉氏(90)
33		84	原田純治氏(90)	135	野島正和氏(90)
34	田代秀徳博士	85	藤田外次郎博士	136	佐田賢次博士
35	渡尾新次郎	86	中山秀三博士	137	市川貞次郎氏(90)
36		87	笹佐文八博士	138	岩上鎌吉博士
37	澤山崇二郎氏	88	吉平公威博士	139	猪石敏二郎氏
38	森菜太郎氏	89	青山觀通博士	140	神保小虎博士
39	飯盛旭彦博士	90	小倉伸吉博士	141	
40		91		142	
41	田代庄二郎氏	92	授権盛俊博士	143	渡邊 稔博士
42	徳澤禮之助博士	93		144	
43	伊藤直造氏	94	三上泰次博士	145	赤家好太郎氏(90)
44	瀬戸康記博士	95	池田重助博士	146	松下俊雄氏(90)
45		96	杉井五七博士(学長)	147	井上恭次郎博士
46	三川俊彦氏	97	千本福隆博士	148	赤田承吉博士
47	飯島正之助博士	98	室原留七氏(90)	149	岡岡隆太郎氏(90)
48	中村清二博士	99	田丸卓郎博士	150	
49	藤井健一郎博士	100	山下安太郎氏	151	大井健徳少将
50	木村宗博士	101	後藤敏夫博士	152	福原重次郎博士
51	橋本謙次氏(90)	102	清水俊松博士	153	佐野新太郎博士

図1 写真についていた写真に写っている人の一覧表。

田中館愛橋，平山清次，一戸直蔵，高木重治らである。

この写真に写っている人物は当時の東京在住の天文学者を網羅しているのではないと思われる、非常に貴重な写真が発見されたのではないだろうか。

### 3. 記念写真は寺尾 寿東京大学教授 在職満 25 年祝賀会とわかる

初代東京天文台長で31年間台長職にあった寺尾 寿を中心に左にそうそうたる人々が写った

記念写真をいろいろな人に見てもらい、その由来を調べていたところ、この写真は、寺尾 寿の東京大学教授在職満 25 年祝賀会の記念写真であることが判明し、撮影場所が東京大学附属植物園であることがわかった。

この写真の祝賀会は1909年(明治42年)6月5日に催されたもので、この祝賀会の報告が天文月報第2巻第4号44ページに掲載されている。この記事には開催日が6月6日としているが、これは間違いであることが判明した。その全文を次に



載せる。漢字の一部は当用漢字にしたが、できるだけ原文に忠実に写した。

寺尾教授在職満 25 年祝賀会（天文月報 1909 年第 2 巻第 4 号から転載）

前号雑報欄にて報せし如く、本会会長寺尾博士の同僚友人門下生等の発起にて、前月 6 日大学附属植物園に於て、同博士と家族とを招して祝賀会を催せり。報を聞いて参会するもの浜尾大学総長、山川前総長、古市、高松、辰野各大学名誉教授、添田興業銀行総裁、團琢磨氏を始めとし、眞野、福原両局長及松井、桜井、青山、渡邊各分科大学学長、教授、助教授其他朝野の名士、同郷者等 170 名に及び、浜尾男爵を座長として、入場の際配布したる次第書の順序に依り開会されぬ。第一に藤澤博士起て祝辞を述べ大要左の如し。

「寺尾教授の同僚を代表して祝詞を述ぶる前まず委員を代表して祝賀会計画の概要を報ぜん、抑寺尾君は本務たる大学教職の傍、物理学校の為に、同郷学生の為に、其他幾多青年子弟の為に、数十年一日の如く訓育に盡瘁せられしを以て、是等薰陶を受けたる人々、大学の門弟一同及同僚友人相集りて、君が在職満 25 年に相当するを機として祝賀の催しを企て資金を募集せしに、未だ結了に至らざるも今や応募人員 616 名を算し金額 2,200 円に達せり、其中 1,100 円は寺尾君の同意を得て、同君に最関係深き天文学会に寄贈し、其残余を以て少許の記念品を購入し之を博士に呈し、且油畫二面を調整して一面は天文台に、一面は之を博士に呈することとせり。

寺尾君は安政 2 年卯の 9 月福岡県筑紫郡住吉村に生る、幼時は藩校修猷館に学び常に同輩を抜んで麒麟児の稱あり、後村上塾に入り令弟亨君及井上哲二郎君等と共に外国語を学習せり。明治 6 年君郷里を出でて横浜に來り叔父某君の膝下において、高島学校に遊び仏語を習ふ、其十月終に上京して東京外国語学校に入り、次いで開成学校に入學して、11 年終に優等の成績を以て同校物理学科

を卒業す、翌 12 年海外留学の命を受け仏国巴里に遊び天文学及数学を修行しリサンシェー、エ、ジャンス、マテマチックの学位を得て帰朝せられ、直に東京大学の教務に従事せしが、17 年 6 月 19 日即ち 25 年前東京帝国大学の教授に任ぜられたり。

21 年海軍省、内務省及大学の三天文台を合して理科大学附属天文台となすに際し、寺尾君は其台長となりて、事實の経営に、學術の研究に貢献せらるること少なからず。22 年巴里に開設したる測地学万国會議には本邦委員として之に列席し、其後 31 年測地学委員会の設立さるるや君は其委員長たり、教員検定試験には常に其委員なり。又同志と東京物理学校を創立して理学の普及を企て、筑前学友会に副会長としては育英の道を講ずる等、公に私に其勲績杖屨に違あらず。

寺尾君に 3 弟あり。法科大学教授亨博士、広島病院院長澄川徳君、及台北地方官法官小野隆太郎君と云ふ皆当代の名士なり、かく一家 4 人有為の人才を出せること、全く賢明なる母堂が教導宜しきを得たるに外ならず、母堂は君の先考寺尾喜平太君の配にして、先考蚤世の後専ら遺児扶養の為に心血を注がれたるなり。母堂今尚矍鑠壯者を凌ぐ今日此席に列せられたるは特に慶賀に堪えざるなり云々。」

次に添田法学博士は概要左の祝辞を述ぶ。

「同郷者を代表して述べんと欲せしことは、既に藤澤博士の祝辞中に尽されたれば、重複せざる範囲に於て聊か所感を述べん、由来九州は尚武の氣象に富める土地にして多く慷慨悲歌の士を出すと雖ども、長く同一の事業に従事するは其長所にあらず、筑前人も素より其圏内にあれど博士は四圍の事情に拘らず物理学、数学の如き学科に其身を委ねられしは、實に大英断且大卓見にして、是れ博士の今日ある所以なり、此高德は施いて筑前学生に及ぼし其氣風を一変するに至れり云々。」

次に東京数学物理学会代表者として同会委員長岡博士の祝辞朗読の後、本会副会長平山博士は天文学会を代表して左の祝辞を朗読せり。

「日本天文学会会長理学博士寺尾 寿閣下の理

科大学教授在職 25 年の祝賀に際し謹で満腔の敬意を表す

回顧すれば閣下が夙に天文学の進歩と普及とを圖るが為め学会設立の必要を説かれしは実に十有余年の前に在りき然れども当時時機の未だ熟せざるものあり之が設立を見るに至らざりしも閣下は乃ち専心一意力を根本の培養に尽され徐々として時運の促がす所を待つもの如くなりしに果たせる哉 41 年に至りて学会の一たび設立せられ閣下の推されて会長とならるるや爾来僅々 1 年有余の短日月を以てして会員既に 700 名を算し日に盛況を呈するの觀あるに至れり是れ偏に会長閣下の指導誘掖其宜しきを得たるに由らずんばあらず閣下の学会に於けるや誠実懇到洵に学会の柱石として景卯の情信頼の念殊に切ならざるを得ず。学会の閣下に負う所や此の如く至大なり然るに今又凶らずも祝賀会の発起人諸氏が資金一千有余円を割きて之を学会に寄付せられしあり思ふに是れ亦閣下が高德の然らしむ所にして学会が茲に閣下の余沢を受けたるは会員一同の最も感謝するところなり。

終りに臨んで閣下が邦家の為め斯学の為めに自愛せられ殊に創立日尚浅き学会の為に今後も永く擁護の力を添へられんこと切望の至りに堪へざるなり」

次に木村博士は理科大学出身門人総代として、山下安太郎氏は東京物理学校出身門人総代として、松下俊雄氏は東京物理学校同窓会京阪地方会員総代として祝辞朗読ありて後、蘆野海軍教授は記念品を博士に奉呈せり、記念品は資金の一部を以て

調達したる金屏風 1 雙、東洋美術大觀及黒田、和田両画伯の丹精になれる博士の肖像画等なり。終りに平山助教授は地方よりの祝電を朗読す、此に於て博士は起て概略左の如き答辞を述べられる。

「先刻藤澤博士の述べられし如く、幼にして父を亡ひたる上、家貧しく兄弟も多かりければ、泰西の學術に身を委ねんこと望む能はざりしも、横浜なる叔父の助力に依り僅に洋学の一端を窮ふことを得、後政府の補助を得て開成学校を卒業し仏国に留学するを得たり、かく国家に負う所至大なる故に、就職の後はその學びたる所を以て、専心後進の扶掖に勉め国家に報ゆるあらんを期せり、而して報国の事未だ万分の一に達せざるも却て朝廷より官等位階の殊遇を受け益々負荷の重きを加へけるに、歲月は徒に流れてはや 25 年に満ちけり、今又盛んなる祝典を挙げられ、善美の記念品の贈惠を受け、慚愧感激謝する所を知らず云々。」

右にて祝賀式を終り、次に庭前に於て参列者一同の記念撮影ありて後余興能狂言を始む、余興終りて祝宴に移る卓上浜尾男爵は盛んに博士の学才の深遠と功績の偉大とを頌し、尚天文学の教導攻究に就て、天文学の事業経営に就て寺尾教授の殊力に待つ所甚多きを附言し、博士の為に祝盃を挙げ一同之に和し、賓主歡を盡して散会せるが、近頃になき盛会なりき。(田代謹記)

この記事に添付された寺尾 寿の写真 2 と記念に贈られた絵の写真 3 が次の写真である。



写真 2 天文月報に掲載された寺尾。



写真 3 祝賀会で送られた肖像画。

#### 4. 寺尾 寿の祝賀会に参列した人々

井上四郎の付けた番号と参列者リストを元に、

写真の人物と名前を同定したものが写真4, 5, 6, 7  
である。4節, 5節の名前の後ろの「氏」「学士」、  
「博士」などは井上四郎の名簿によった。



- 1: 藤森温和
- 2:
- 3: 早乙女清房学士
- 4: 川北朝隣
- 5: 志田順学士
- 6: 井上四郎
- 7: 武藤鉄吉
- 8: 有田邦雄
- 9: 杉山正治
- 10:
- 11: 水谷英保
- 12: 土肥慶造博士
- 13: 三輪桓一郎博士
- 14: 戸田光潤
- 15:
- 16: 実吉益美
- 17: 東野十次郎
- 18: 谷津直秀学士
- 19: 桜井錠二博士 (学長)
- 20: 帆足通直
- 21: 坂井英太郎博士
- 22: 中川銚吉学士
- 153: 佐野静雄博士

写真4 記念写真の左1/4.



- 23:
- 24: 平山信博士
- 25: 長岡半太郎博士
- 26: 山川健次郎博士
- 27: 高橋潤三
- 28: 山崎直方学士
- 29:
- 30: 小藤文次郎博士
- 31: 堺和為昌博士
- 32:
- 33:
- 34: 田代箋往博士
- 35: 浜尾新総長
- 36:
- 37: 澤山勇三郎
- 38: 森岩太郎
- 39: 飯森挺造学士
- 40:
- 41: 田代庄三郎
- 42: 熊沢鏡之助学士
- 43: 伊藤直温
- 44: 瀬戸虎記学士
- 45:
- 46: 小川清彦
- 47: 飯島正之助学士
- 48: 中村清二博士
- 49: 藤井健次郎学士
- 50: 木村栄博士
- 51: 植松誠吾
- 52: 桜井房記学士
- 53: 寺尾新
- 54: 後藤敬三
- 55:
- 56: 福見尚文
- 57: 船津禾郎学士
- 58: 三守守学士
- 59: 田中館愛橘博士
- 60: 大澤謙二博士
- 61: 寺尾御母堂

写真5 記念写真の左2/4.





- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 62: 清水彦五郎      | 87: 箕作元八博士      |
| 63: 眞野文二博士     | 88: 古市公威博士      |
| 64: 野中到        | 89: 青山胤通博士      |
| 65: 藤沢利喜太郎博士   | 90: 小倉伸吉学士      |
| 66: 飯島魁博士      | 91:             |
| 67: 渡邊渡博士 (学長) | 92: 板橋盛俊学士      |
| 68: 戸水寛人博士     | 93:             |
| 69: 寺尾寿        | 94: 三上参次博士      |
| 70: 宮崎園次郎      | 95: 池田菊苗博士      |
| 71: 緒方正規博士     | 96: 松井直吉博士 (学長) |
| 72: 芦野敬三郎博士    | 97: 千本福隆学士      |
| 73: 近藤次繁博士     | 98: 笠原留七        |
| 74: 寺尾夫人       | 99: 田丸卓郎博士      |
| 75: 寺尾亨博士      | 100: 山下安太郎      |
| 76: 中村恭平博士     | 101: 後藤牧太学士     |
| 77: 吉田好九郎学士    | 102: 清水清蔵学士     |
| 78: 森アツ子       | 103: 高木貞治博士     |
| 79: 中島鋭治博士     | 104: 国枝元治学士     |
| 80: 松原行一学士     |                 |
| 81: 丸山米太郎      |                 |
| 82: 和田雄治学士     |                 |
| 83: 服部鹿次郎博士    |                 |
| 84: 原田親雄       |                 |
| 85: 藤田外次郎学士    |                 |
| 86: 中山秀三郎博士    |                 |

写真6 記念写真の右 2/4.



- |               |              |
|---------------|--------------|
| 105: 渡瀬庄三郎博士  | 136: 窪田賢次博士  |
| 106: 藤教篤学士    | 137: 市浦定次郎   |
| 107: 下田卯一博士   | 138: 岸上鎌吉博士  |
| 108: 吉江琢児博士   | 139: 猪間収三郎   |
| 109: 人見忠次郎    | 140: 神保小虎博士  |
| 110: 高松豊吉博士   | 141:         |
| 111: 辰野金吾博士   | 142:         |
| 112: 平山清次学士   | 143: 渡邊襄学士   |
| 113:          | 144:         |
| 114: 浅野肇学士    | 145: 漆原好太郎   |
| 115: 一戸直蔵学士   | 146: 松下俊雄    |
| 116: 片桐鎌三郎    | 147: 井上哲次郎博士 |
| 117: 野口保興     | 148: 和田藤吉学士  |
| 118: 三好学博士    | 149: 関島兼太郎   |
| 119: 安田又一     | 150:         |
| 120: 田中館寅士郎学士 | 151: 大久保徳明少将 |
| 121: 松崎故一郎    | 152: 佐野静雄博士  |
| 122: 平山順学士    |              |
| 123: 樺寧学士     |              |
| 124:          |              |
| 125: 金沢卯一     |              |
| 126: 堀内平次郎    |              |
| 127: 今村明恒博士   |              |
| 128: 藤野了祐     |              |
| 129: 松村任三博士   |              |
| 130: 福田為三学士   |              |
| 131: 森庄八      |              |
| 132: 中野徳郎学士   |              |
| 133: 保田棟太学士   |              |
| 134: 白井光太郎    |              |
| 135: 野島乙松     |              |

写真7 記念写真右 1/4.

## 5. 寺尾 寿 在職 25 年祝賀会記念写真名簿に登場する主な人々

この寺尾 寿教授在職満 25 年祝賀会記念写真に登場する名前のわかった人たちについて、調べることは、当時の天文学、その周辺の学問に関連した人々を知ることになり有意義なことである。そこでこの調査を、近藤雅之、木下 宙、谷川清隆、中桐の下で行った。在野の天文学史研究家の佐藤利男の協力があった。中桐は東京理科大学出身ということもあり、東京理科大学近代科学資料館の協力を得、また物理学校関係の書物を参考にした。ここでは天文学に関係した主な人物にとどめ、すべての人物について調査した事項については項を改める。

- 3：早乙女清房：(学士)，第 3 代東京天文台長 (1928 (昭和 3) 年 3 月 31 日～1936 (昭和 11) 年 3 月 31 日) 東京天文台在職期間 (1902 (明治 35) 年 7 月～1936 (昭和 11) 年 8 月)，ハレー彗星観測で帆足と大連に出張
- 5：志田 順：(学士)，東京帝国大学卒業。地球物理・地震学。京都帝国大学理学博士。京都帝国大学名誉教授。地震の P 波初動に押し引きの 4 象限分布があることを発見し深発地震の存在を指摘した。また、月と太陽の引力による地球の弾性変形 (地球潮汐) に関する研究で世界の先端を走り、1929 年には「地球及地殻の剛性並に地震動に関する研究」で帝国学士院恩賜賞を受賞している。「志田数」で知られる
- 6：井上四郎：(氏)，東京天文台在職期間 (1920 (大正 9) 年～1932 (昭和 7) 年 2 月)，1901 (明治 34) 年ペルセウス座新星発見，ハレー彗星観測の満州派遣衆議の 1 人，内村鑑三の新星発見に係
- 8：有田邦雄：(氏)，日本天文学会発起人の一人，天界 6 月号 (第 19 卷・第 218 号) に「本邦港湾における報時信号」の記事がある。東京物理学校明治 34 年卒 (理化)，35 年数学卒
- 9：杉山正治：(氏)，陸地測量技師，創業期の陸地測量部で活躍，日本初の近代の日食観測に参加，内務省地理局時代 (1887 (明治 20) 年) 皆既日食観測 (新潟)
- 14：戸田光潤：(氏)，東京天文台職員 (1902 (明治 35) 年～1938 (昭和 13) 年)，プラネタリウムのパイオニア東日天文館研究室員でもあった。
- 19：桜井錠二：(博士，学長) 東京大学理科大学長，学術研究会議設立委員の一人，桜井-池田沸点測定法の考案で知られる化学者，ロンドン大学に留学し，帰国後は日本で二人目の東京大学化学系教授。主に物理化学分野で研究活動を行い東京化学会 (日本化学会の前身) の運営や理化学研究所，日本学術振興会の設立など学術振興にかかわる活動が著名
- 20：帆足通直：(氏)，東京天文台職員 (1899 (明治 32) 年～1919 (大正 8) 年 2 月) ハレー彗星観測で早乙女と大連に出張
- 24：平山 信：(博士)，東京天文台在職期間 (1890 (明治 23) 年 7 月～1932 (昭和 7) 年 1 月)，第 2 代東京天文台長 (1919 (大正 8) 年 10 月 9 日～1928 (昭和 3) 年 3 月 31 日)，日本天文学会を代表して祝辞
- 25：長岡半太郎：(博士)，物理学者，東京・ポツダム間の重力比較測定，学術研究会議設立委員の 1 人，文化勲章受賞
- 26：山川健次郎：(博士)，前東京大学総長，会津藩



- 出身，26歳で東京大学教授，物理学，京都大学総長，九州大学総長
- 27: 高橋潤三：(氏)，東京天文台職員(1899(明治32)年～1928(昭和3)年)，江戸時代最高の天文学者 高橋至時(たかはしよしとき)の後裔。1899(明治32)年東京帝国大学卒業後天文台の助手として歴編纂。
- 35: 浜尾 新：(総長)，文部大臣(1897(明治30)年～1898(明治31)年)，東大総長(1893(明治26)年～1897(明治30)年，1905(明治38)年～1912(大正元)年)，東京美術学校創立，貴族院議員，枢密院議長，東宮太夫
- 41: 田代庄三郎：(氏)，東京天文台職員(1893(明治26)年9月～1911(明治44)年10月，1922(大正11)年3月～1936(昭和11)年4月，後に長崎大浦報時観測所に勤務，1912(大正元)年に長崎鍋冠山に報時球ができたときに東京天文台から赴任。東京物理学校明治24年卒(数学)
- 46: 小川清彦：(氏)，東京天文台職員(1902(明治35)年12月～1944(昭和19)年3月)，日本書紀に使われた暦の分析で知られる。1912年一戸直蔵と共に訳でアレニウス「宇宙開闢論史」出版。東京物理学校35年卒(数学)
- 50: 木村 栄：(博士)，東京天文台職員(1892(明治25)年～1899(明治32)年9月)，寺尾 寿に位置天文学，田中館愛橘に地球物理学を学ぶ。木村の長女・伊登子は物理学者の茅誠司の妻。初代緯度観測所長，Z項発見，1911(明治44)年学士院恩賜賞を受賞。1922(大正11)年水沢に万国緯度観測中央局が置かれその局長に就任，1936(昭和8)年まで在職。第1回文化勲章受章者，理科大学出身者代表で祝辞
- 53: 寺尾 新：(氏)，寺尾 寿の長男，動物学，父についての回想記事がある。日本水産学会創立発起人，戦後宮崎大学教授
- 56: 福見尚文：(氏)，理科大学星学科1909(明治42)年7月卒，東京天文台職員(1922(大正11)年10月～1945(昭和20)年10月)，東京天文台台長事務取扱(1939(昭和14)年6月27日～1941(昭和16)年3月31日)
- 59: 田中館愛橘：(博士)，地球物理学者。東京帝国大学教授。貴族院議員，文化勲章受章者，学術研究会設立委員の1人，1882(明治15)年に東京大学理科物理学科を第1期生として卒業し準助教授に就任。1883(明治16)年に助教授となる。この年に電磁方位計を考案している。在学中，菊池大麓，山川健次郎に師事，ジェームス・アルフレッド・ユーイングに電磁気学，T・メンデンホールに地球物理学を学び，富士山頂での重力測定を行う。
- 61: 寺尾御母堂
- 65: 藤沢利喜太郎：(博士)，数学者，東京帝国大学教授，日本に西欧の数学を移入，学術研究会設立委員の1人，祝賀会で代表祝辞
- 69: 寺尾 寿：東京天文台在職期間(1883(明治16)年3月～1919(大正8)年10月)初代東京天文台台長，台長の期間(1888(明治21)年6月2日～1919(大正8)年10月9日)，初代天文学会会長，初代東京物理学校校長，初代測地学院会会長
- 71: 團 琢磨(?：後述)：(工学博士)，実業家。男

爵，マサチューセッツ工科大学鉱山学科を卒業し，大阪専門学校，次いで東京帝国大学で1881(明治14)年星学担当の奏任助教授なり，天文学などを教え草創期の東京天文台で活躍している。

74: 寺尾夫人:

75: 寺尾 亨: (博士)，法学者，寺尾 寿の弟，東大法科教授，国際法

78: 森 アツ子: 寺尾 寿の長女，外交官支那大使森安三郎夫人

88: 古市公威: (博士)，土木工学者，東大名誉教授，学術研究会設立委員の1人寺尾と同時期にパリ留学，チスランの力学を受講

90: 小倉伸吉: (学士)，理科大学星学科1908(明治41)年7月卒。一戸直蔵と新高山登山，東京天文台職員(1908(明治41)年～1918(大正7)年)，水路部

103: 高木貞治: (博士)，東大数学，類体論，「解析概論」の著者，文化勲章受章者

112: 平山清次: (学士)，天文学者，寺尾 寿の弟子で，天体力学及び古暦の研究で有名。小惑星の「族」を発見，日露国境画定に参画，東京天文台在職(明治32年10月～昭和3年7月)，祝電披露

115: 一戸直蔵: (学士)，天文学者，科学ジャーナリスト1903(明治36)年東京帝国大学理科大学星学科卒，ジャーナリストとして反アカデミズムの立場をとったことで知られている。1905(明治38)年渡米しシカゴ大学ヤーキス天文台に留学，日本で最初の変光星の観測。1907年10月帰国，東京天文台の赤城山移転を主張し，寺尾台長と対立し1911(明治44)年11月東京天文台を追

われ，英国の『ネイチャー』，米国の『サイエンス』になって現代之科学社を設立し科学雑誌『現代之科学』を発行したが経営的には苦難の連続で，結核のため42歳の若さで死去，新高山観測所計画発表

120: 田中館寅士郎: (博士)，物理学草創期の御所・田中館愛橘の弟

132: 中野徳郎: (学士)，1899(明治32)年7月星学科卒業，緯度観測所に入所し，Z項の発見で有名な木村栄の緯度観測に参加，海軍水路部技師，東京・グアム間経度観測を担当

146: 松下俊雄: 東京物理学校同窓会京阪地方代表で祝辞，東京物理学校明治30年卒(物理・数学)

xxx: 添田寿一: 同郷者代表で祝辞，財政学，日本興行銀行総裁

## 6. No. 71の人物は，團 琢磨との説が出現

この祝賀会に寺尾 寿と同郷で同じ福岡藩の藩校修猷館で学んだ團 琢磨が出席者の中にいたが，写真に写っていた153名の井上四郎の名簿の中で名前のわかった135名の中には團 琢磨の名前がなかった。

團 琢磨については，名前はよく知られている人物で，日本を代表するクラシック音楽の作曲家の團 伊玖磨の祖父である。天文学に関係していたことはあまり知られていないが，1871(明治4)年旧藩主の黒田長知の供をして岩倉使節団の一員として渡米し，そのまま留学，マサチューセッツ工科大学鉱山学科を卒業した工学博士である。1878(明治11)年に帰国した後，大阪専門学校，次いで東京帝国大学で助教授となり，工学・天文学などを教えた。1883(明治16)年，数学，天文学の修行のためフランスに留学していた寺尾が帰国し，東京大学理学部講師になった際，團 琢磨



写真8 佐藤氏が持ち込んだ団 琢磨.

佐藤氏が持ってこられた団 琢磨の写真8が、記念写真の寺尾 寿と斜め後ろに写った団 琢磨と見られる人物である。



写真9 寺尾の斜め後ろの人物.

は工部省に去り、その後三井三池炭鉱に移り炭鉱経営に成功し、戦前の三井財閥の総帥となった。昭和金融恐慌のとき、三井がドルを買い占めたため、財閥に対する非難の矢面に立ち、1932(昭和7)年3月5日、三井本館前で、右翼団体血盟団の菱沼五郎に狙撃され暗殺された。これほどの人物である。在野の天文学史研究家の佐藤利男が団琢磨の写真をもって筆者のところに現れた。この記念写真に木村 栄が写っており、やはり井上四郎の遺品の中から発見された天頂儀の前で撮影された正装の木村 栄が同定できたことがあった。今回もその特徴的な髪型から祝賀会に出席していたNo. 71の人物は団 琢磨と同定できるといのである。この人物には緒方正規の名が記されていたが、その同定は間違いだといのである。

写真6の71番の人物はこの写真では緒方正規博士とされているが、69番の寺尾 寿の斜め後ろに写っていること、75番の寺尾 寿の弟の隣に写っていることは寺尾 寿と同郷、同じ藩校で学んだ仲を思い、これらの写真から71番の人物が団 琢磨であろうとの推測はもっともである。それでは緒方正規博士はどうしてくれるという問題が残るが今となっては井上四郎に聞くこともできない。読者の中で、これらの人物の同定に新しい

所見があればぜひ伺いたい。

### The Discovery of the Group Photograph at the Commemorative Meeting for Hisashi Terao's 25 Years Professorship of Tokyo University

Masao NAKAGIRI

National Astronomical Observatory, 2-21-1 Osawa, Mitaka, Tokyo 181-8588, Japan

Abstract: I discovered the commemorative picture, in which Hisashi Terao sat in the center of the group, from the mementos of Shiro Inoue, who was the staff of Tokyo Astronomical Observatory. Hisashi Terao was the First President of Astronomical Society of Japan, the First Director of Tokyo Astronomical Observatory, the First Dean of the Tokyo College of Science, and the First Chairman of the Imperial Japanese Geodetic Commission. After a careful investigation, this picture turned out to be the commemorative photograph of the meeting, which celebrated the 25-th anniversary of Hisashi Terao's professorship of Tokyo University. About 170 people attended this celebration, and 153 people appeared in the photograph and we could recognize many prominent persons of those days. The names of 135 attendants among them are identified and brief comments for them are given in this article.